

精神科治療学 Vol.33 No.6

2018年6月号 特集 カタトニア（緊張病）の診断・治療を問う
[雑誌]



精神科治療学 第33巻6号(通巻398号)平成30年6月19日発行(毎月19日発行) ISSN 0912-1852 Seishinika chiryogaku

Japanese Journal of Psychiatric Treatment Vol.33 No.6 Jun. 2018

■特集 カタトニア（緊張病）の診断・治療を問う

特集にあたって	古基大樹
最近のカタトニア（緊張病）の概念	三好功峰
カタトニアの「操作的診断・治療」化	上田 諭
Flak と Taylor はカタトニアを統合失調症から解き放った—神経学的症状群としての再評価—	村松友佳, 大前 晋
カタトニアに対するベンジジアゼピン治療と電気けいれん療法 (ECT)	坂寄 健
カタトニアの薬物療法 (維持療法を含めて)	八田耕太郎
昏迷とカタトニア (緊張病) 再考—妥当性問題とその先—	安東大輔
さまよえるカタトニー概念—Kahlbaum の野心にみちた船出と、Kraepelin たちの難航を さわめた若母—	大前 晋
精神疾患における運動障害—カタトニー (Kahlbaum), 運動精神病 (Wernicke), 精神運動障害 (Kleist) における問題提起とその現代的意義—	松下正明
カタトニアにおける両極性を形態学から読み解く—Bleuler, E. の緊張病論—	玉田 有
フランスのカタトニア概念	濱田秀伯, 山本保天
非定型精神病とカタトニア	原賀英造
抗 NMDA 受容体脳炎とカタトニア	筒井 幸, 馬越秋風, 神林 亞 也
解離とカタトニア	榮山雅俊
発達障害とカタトニア—自閉スペクトラム症を中心として—	小野和哉
理念型としての緊張病	古基大樹
〔資 料〕総合病院精神科リゾン活動において緊張病と診断された症例の検討 —器質性緊張病に注目して—	新波純一

■研究報告

児童・思春期のうつ病性障害の症状軽減時期把握のための研究	佐々木博之, 松本武上, 城野 匡 他
------------------------------	---------------------

■海外文献ジャーナルクラブ

ニューロダイバーシティ—自閉症と精神医学の革命的概念—	賀見 聡
-----------------------------	------

■通 致

〔オピニオン〕妄想の意味、機軸と出自	阿部大樹
--------------------	------



発売日: 2018年6月22日

出版: 星和書店

PDF

<https://rapidgator.net/file/ffab944b2501b0e191636d024a52d52a/GTGKj8aul.pdf.rar.html>